

赤松小三郎研究会講演会を開催 9月28日@日比谷

関東同窓会の同好会の一つに「赤松小三郎研究会」がある。

同研究会は小三郎の事績を追い、歴史的再評価を実現することを目的としている。

6年前に設立され、これまで毎年、講演会を実施してきた。

今回は7回目で、テレビでもお馴染みの岩下哲典東洋大教授（1962年、長野県塩尻市生まれ、伊那北高校卒）を迎えての講演会となった。

秋晴れの9月28日（土）の午後、千代田区の日比谷公園内にある日比谷図書文化館のホールには180名の参加者が集まり、ほぼ満席となった。

参加者の半数以上は上田高校同窓生以外で、小三郎に対する関心度が高まっていることを物語っているようだ。

冒頭、同会会長の滝澤進さん（61期）から同会の活動報告があり、その後、同会事務局長の小山平六さん（62期）から講師の岩下先生の紹介があった。

講演は「赤松小三郎と坂本龍馬・中浜万次郎-その国家構想と暗殺をめぐる」と題するもので、内容は

1. 幕末の国家構想のきっかけは、ペリー来航？
2. ペリー来航直前の黒田対外建白書、その結果と意義
3. 赤松小三郎の国家構想
4. 坂本龍馬の国家構想
5. 赤松構想と龍馬構想の比較

と続いた。

小三郎、龍馬、万次郎はお互いの接点や接触について記録はないようだが、同時代で影響を受け合ったのではないかとコメントがあった。

講演後、参加者から活発な質問を飛び交い、大いに盛り上がった。

（19年9月28日、上原記）

次ページに写真掲載

【写真 1：講演する岩下哲典先生】写真撮影は本村編集長



【写真 2：講演会の様子】

